

四大文明を調べる(生徒作品)

平成元年に告示された現行指導要領は、教育課程基準の改善のねらいを

豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成を図る
自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視する

国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視し、個性を生かした教育の充実を図る

国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視するとして編成されている。

この学習指導要領から「自己教育力」ということばが注目を集めるようになり(今となっては少々懐かしい響きであるが)、種々の研究がなされ、種々の著書が著された。これら著書では「自己教育力」とは、社会の変化の激しい時代に生涯を通じて学び続け、心豊かにたくましく生き抜くための基礎となる力であって、この社会の激しい変化に自らの力で対応できる能力としての「学ぶ意欲」と「学び方」を身につけさせることとされている。

社会科では、国際化・高齢化・情報化や科学技術の発展によって、日々変化する社会の日常の社会的事象に関心を持ち、自ら学び続けようとする意欲を持った生徒の育成を目指すことが注目されるようになった。学校で身につけた知識や技能だけでは現在社会に主体的に対応できなくなっているのである。しかし、授業は能力主義的な傾向に振り回されてきたし、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的知識を可能な限り多く身につけさせることに教師は多くの能力を注いできた。このことは私自身の指導もそうであったように感じられる。そして生徒自身の学習の目的にも多くの相違点はなかったように思う。

ところが「昨日学んだ知識は今日はもう古い」とまで感じさせられるほどの急激に変化する現在においては、従来の「覚える社会科」や「知識をデータベースとする授業」ではなく、生徒自らが知識(基礎・基本)や技術を駆使して、主体的に学ぼうとする関心や意欲を育てる授業への工夫改善が必要となった。

そこで社会科では「問題解決の能力」を育てる指導、つまり自分で問題(課題)を発見し、自分で学び、自分で考え、自分で判断・行動して、問題(課題)を解決する資質や能力を養うことが重要視されるようになった。

5つの問題解決の能力

- 発見する力 自分の問題(課題)を発見する能力。
- 解決する力 問題(課題)を適切な手段で解決する能力
 - (ア) 資料の収集能力
 - (イ) 資料を吟味・取捨選択能力
- 決定する力 に伴い、分析や判断をし、自分の意志決定をする能力
 - (ウ) 資料の分析と検討能力
 - (エ) 結論を導き出す能力
- 評価する力 問題(課題)解決に至る過程を評価する能力
- 発表する力 問題発見から結論までを発表する能力
 - (オ) まとめる能力
 - (カ) 発表について工夫する能力

このことについて学習指導要領(社会)では、「3指導計画の作成と内容の取り扱い1-(4)」に「生徒の主体的な学習を促し、社会的事象に対する関心を一層高めるため、各分野において、第2の内容の程度や範囲を十分に配慮しつつ事項を再編成するなどの工夫をして、適切な課題を設けて行う学習の

充実を図るようにすること」と述べられている。

また、この学習の中では学習の方法(学び方)をも学ぶことによって、生徒は自信を抱くようになる。そこから生徒は自分の力で学び続けようとする意欲がわきでてくる。生涯学習の時代の到来を考えた時、一人ひとりの生徒が生涯を通じて「自分らしさ」発揮して、心豊かにたくましく生きる資質や能力の基礎を養わなくてはならない。この資質や能力こそが「問題解決の能力」である。

余談であるが、私が幼稚園に通う以前の頃、父がブリキ製のダンプカーのおもちゃを買ってくれた。しかし、そのダンプの荷台がどうしたらはね上がるのかがわからなかった(問題(課題)の発見)。私は縁側で一人試行錯誤の後、とうとう父にその方法を尋ねた。父の答えは「考えてみな」のたった一言であったことを覚えている。その後の悪戦苦闘の後に、自らの力で問題(課題)を解決した私は、ダンプのおもちゃで楽しく遊ぶことができた。当時はきっとたくましく生きていた子どもだったのだろう。

今回の新学習指導要領(来年度より実施)の改訂にあたっての基本的な方針(社会科)は、
内容の厳選

学習状況については、年号や地名、地域・日本・世界の社会や産業に関する知識を提示された課題を調べる態度は比較的付けているが、それらの知識を基に様々な視点から諸地域の特色や歴史的事象などを考察したり、また、それらを自分なりに考えて意見を述べたりする能力については、十分でない面が見られる(教育課程審議会「中間まとめ」の社会科の「現状と課題」より)

学び方を学ぶ学習の充実

社会科の学習では学習の過程よりも結果を重視し、事実認識の結果を覚える学習になりがちであったが、激しい社会の変化の時代においては、各時点で身につけた知識がすぐに役に立たなくなったり、覚えることが膨大になったりする。これでは事実認識を覚えるだけの学習であって社会の変化に対応できない。

そこで、変化する社会で繰り返し社会認識をしていくことが肝要である。そのためには社会の基礎的知識や基本的な考え方を身につけるとともに、事実認識の方法を身に付けることが重要になってくる。具体的には事例を通じて課題を発見し、課題を追究し、考察する学習を展開することで、調べ方・学び方や見方考え方を身に付ける工夫が大切である。

社会の変化への対応

我が国は、国際化・情報化・科学技術の進展・環境問題への関心の高まり・高齢化・少子化などの社会の変化が急速に進んでおり、今後一層激しい変化が予想される。

3分野を関連付けて扱う項目の設定

参考 平成元年 中学校学習指導要領(文部省)
平成10年 中学校学習指導要領(文部省)
平成10年 中学校学習指導要領解説書(文部省)

「国調べ」

時期 1年生 夏休みの課題

方法

(1) 私たちはすでに授業でいくつかの国や地域について学んできました。そこで経験した学び方や調べ方を活用して、各自で興味のある国や関心のある地域を取り上げて調べる。

・教科書では学習できない国や地域を、いろいろな手段で調べてみよう。

・図書館や公共施設を利用して調べることができます。

(2) 調べた内容をまとめる。

8つ切り画用紙(スケッチブックの大きさ)5枚~8枚程度にまとめる。画用紙は縦でも横でも自由です。内容は、国や地域のように人や人々の生活には限定しません。調べる内容を限定する方法でもかまいません。

内容の限定とは、例えば「オランダの国土の大部分は海面下にあるが、この国では国土の拡大のためにどのような工夫をしてきたか」や「砂漠を流れるナイル川はなぜ氾濫をおこすのか」「花の都パリというのは本当なのか」のように、テーマをしばって調べることです。

文章ばかりでなく、地図や表、グラフなどを利用することによってまとめやすい場合があります。色鉛筆やカラーペンなど用具にも工夫しましょう。

方法(2)でコンピュータを使用する……省略



ドイツ連邦共和国(生徒作品)

「都道府県を調べる」

時期 平成12年度1年生 3学期

内容

各自が興味や関心のある都道府県について調べ、まとめ、発表する。

ねらい

都道府県(和歌山県を除く)について、種々の資料を収集し、それら資料を取捨選択し、まとめ(再構成)、その都道府県の地理的特色を見つけだし、発表する。

計画 10時間

時数	学習内容等
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と学習計画を知る。 ・生徒一人一人が調べる「都道府県」の決定 ・生徒の興味や関心を重視し、自分の調べたい「都道府県」があればその理由についてアピールさせる。 ・教師より日本国勢図絵(CD-ROM版を含む)など資料例を提示(次時より使用)するとともに、その入手方法等についてのアドバイスを行う ・発表の形態について説明、用紙の提示 ・準備物等について
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の用意した資料、生徒各自が持参した資料で学習 ・各生徒が利用している資料や収集している資料について紹介をする ・メモの取り方等についてのアドバイスを行う
2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の図書室を利用した学習 まとめ方についてのアドバイスを行う
2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用した学習 調べている「都道府県庁」のHPへアクセスし、その後は自由に情報の検索と収集を行う。 HPの紹介 国土地理院(http://www.gsi.go.jp) 帝国書院(http://www.teikokushoin.co.jp) yahoo地域情報(http://dir.yahoo.co.jp/regional)など
	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料を活用し、まとめる



駅でもらってきた旅行パンフレットの活用



色鉛筆やマーカーは必需品です

3時間



インターネットでの資料(写真右)を活用



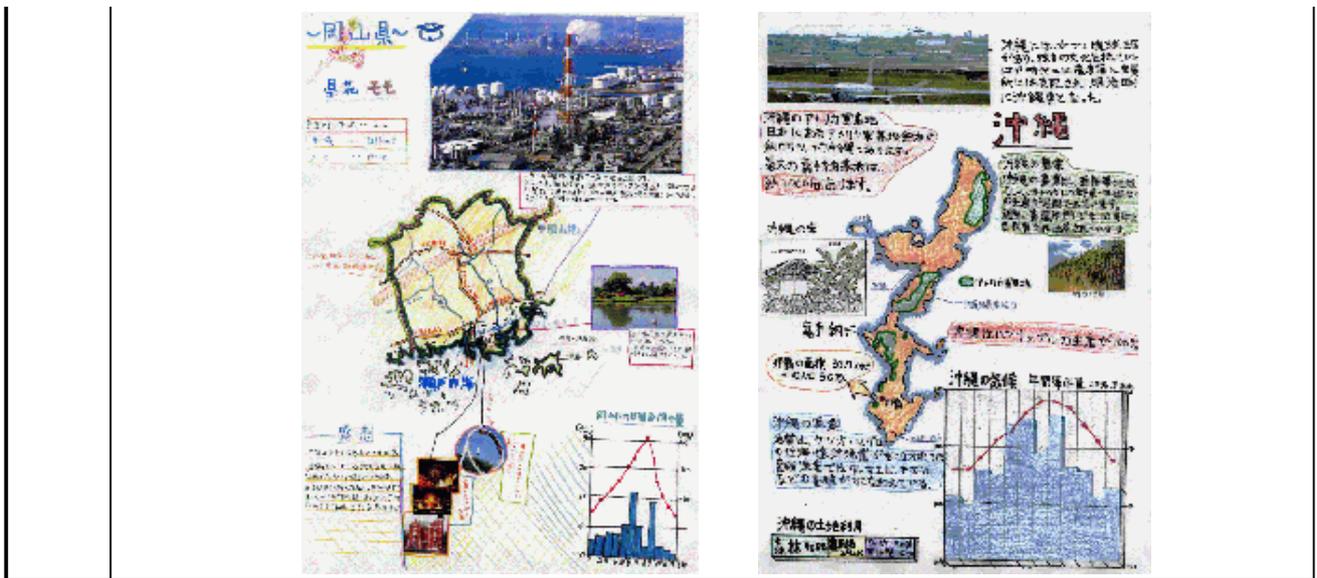
制作途中、友達のアドバイスを受ける

1時間

発表～掲示と自己評価

生徒作品





授業を終えて

来年度より実施される、都道府県単位の学習の試みとして。

2月下旬から3月に渡る時期の授業であったため、卒業式関係の行事で変則的な時間割であったことや、コンピュータ室が他教科での利用と重複し、実際の授業では図書室とコンピュータ室の利用が前後する状態であった。図書室の利用については昼休みの時間を利用して調べたり、資料(図書)を借り出したりと、予想以上に熱心であったように感じる。また、資料も駅や旅行社のパンフレットの入手、DMで各家庭に送られる本やチラシ、小学校時に利用していた参考書、図書館(志学館)から借り出した本など様々であった。生徒たちはその資料からそれぞれの「都道府県」のついて調べていた。その活動の中で感じたことであるが、生徒たちにも情報の収集は容易(情報があふれる現在社会を実感する)であるが、その情報から必要な情報の取捨選択が難しいようである。この情報の取捨選択を失敗すると、次の活動であるまとめが困難である。苦労してまとめたとしても、その内容について自分なりの考察や考えを持つに至っていないため発表に苦労する生徒も多く見られる。

今後の課題

新学習指導要領では、2内容の(2)のイの都道府県に『47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身につけさせる』とある。

第1の課題は、幾つかの都道府県とはどこか。和歌山県と????-1・?????-2。

第2の課題は、和歌山県、?????-1・?????-2をそれぞれどのような視点や観点、方法で探究させるか。その学習成果をどのような形でまとめさせるか。

「人物について調べる(紙芝居の制作)」

時期 2年生夏休みの課題(平成13年度は1年生で実施)

内容 興味・関心ある歴史上の人物について調べ、紙芝居を制作する
ねらいとして

小学校学習指導要領 3 内容の取り扱い「児童の今日に関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産を精選して具体的に理解させるとともに、…」とあり、また、生徒たちは歴史上の人物について小学校でも多くを学び、調べ学習を経験してきているようである。加えて、マンガで日本史を読みものとした数種類の本が発行され、学校の図書室にも用意され生徒たちの人気の本となっている現状があった。

なぜ「紙芝居」か

歴史的分野の学習で、生徒たちのようすがいきいきするのは、歴史上の人物を中心にした学習であるようにも思われる。そこで歴史上の人物にスポットをあてて調べさせることを計画したが、レポート形式でのまとめを課題とした場合、百科事典や偉人伝、最近ではインターネットのHPから検索し、それらの文章をそのままレポートとして提出されることが十分に予想される。人物について理解し、またまとめるといふ観点からみて不十分なように思うし、紙芝居は後々、教材の一つとして利用できると考えたからである。



教育実習生の授業での活用

本年度 生徒たちが調べた人物

明治天皇・昭和天皇・中大兄皇子・天智天皇・徳川家康・徳川吉宗・徳川綱吉・徳川家光・伊能忠敬・織田信長・豊臣秀吉・聖徳太子・平賀源内・坂本龍馬・藤原道長・足利義政・卑弥呼・野口英世・西郷隆盛・華岡清洲・夏目漱石・紫式部・清少納言・ヤマトタケル・菅原道真・行基・陸奥宗光・新渡戸稲造・空海・伊藤博文・春日局・与謝野晶子・源義経・斎藤道三・聖武天皇・福沢諭吉・阿部晴明・二宮金次郎・宮沢賢治・北条時宗・東郷平八郎・大岡越前・源平の合戦・戦国大名の登場へ・レンケラー・ニュートン・ナイチンゲール・アンデルセン・クレオパトラ・アンネフランク・アムンゼンとスコット・ゴッホ・アインシュタイン・シュリーマン・エジソン

作品の展示について

本校では規模には大小があるものの文化祭が行われている。社会科の取り組みとして、各学級のいくつかを展示(下 写真)している。また、多くの先生方から「実際に紙芝居をやらせてみては」とのリクエストがあるため、紙芝居用の木枠を家庭部(部活動)の先生にお願いをし作成している。

唐の六代皇帝玄宗は、平和で豊やかな時代をつくりあげた。そのため、都長安は繁栄し、人口は百万人をこえた。楊貴妃は、蜀州の身分のひくい役人の子に生まれたが、姿が大変美しく、歌や舞にすぐれていたことから、玄宗皇帝の日にとまり妃となった。

右の紙芝居「楊貴妃」の文章



紙芝居「楊貴妃」

実物は、4つ切り画用紙に絵の具で描いている。



「新聞を読んで」



生徒のノート

時 期 3年生夏休みの課題

内 容 毎日、各家庭で購読している新聞から興味や関心ある記事を読みコメントを書く。

ねらい

公民の授業で、「意外と生徒たちは新聞を読んでいない、ニュースを見聞きしていないな」と感じ場面にぶつかる。公民の授業で、社会(世の中)の動きやできごとについて、中学生は中学生としてのレベルで知っていてほしいと思うことがある。そこで、「ニュースに目を向けさせてやろう」と言うのがこの課題の出発点であった。また、社会のできごとに対して自分の意見(感想)をもつことができればと考えた。

選択社会科の取り組み

実施年度	【名称】 学 習 内 容
平成11年度	<p>【ODANGOからボランティア】 ODAやNGOにおける国際援助の活動を通じて、国際協力の重要性を知る。その調査や資料の収集に外部機関の利用を体験する。調査・研究したことをまとめ発表する。 身近に協力できることを模索していく中で、ボランティア活動を実践する。</p>
平成12年度	<p>【歴史研究】 必修授業では扱うことのない史料を研究し、新たな歴史の発見をめざし、研究内容をレポート形式で報告する。</p> <p>【Map OS】 地図には文字化することのできない様々な情報が含まれることを知り、その情報を読みとったり、生徒一人一人が主題図を作製したり、共同で立体地図(下 写真)の作製に取り組む。</p> <div data-bbox="584 1594 1190 2033" data-label="Image"> </div> <p>【世界と日本の自然と社会と文化】 種々の資料と地図を効果的に使って、広い視野に立って地理的事象について探究</p>

し、レポートを作成する。

平成13年度

【NTP】

JR時刻表や地図帳等を利用して、旅行計画(旅行ガイドと行程表)を作成する。



旅行パンフレット表紙(生徒作品)

【国調べ】

関心ある国について、資料(図書・インターネット・新聞・雑誌・CD-ROM等)を活用してレポートを作成する。

実施にあたってのポイント

- (1) 生徒への学習内容を徹底
- (2) 生徒自身が興味や関心のあるテーマを選んだか
- (3) 学習の場の確保
週一時間であるため、調べ学習のためにも図書館を確保
パソコン活用のためにパソコン教室の確保
- (4) 学習の進捗の確認と支援のために、学習ファイルを活用
- (5) 発表レポート作成・時間の確保